

## 症例

## 1

## シェーグレン症候群

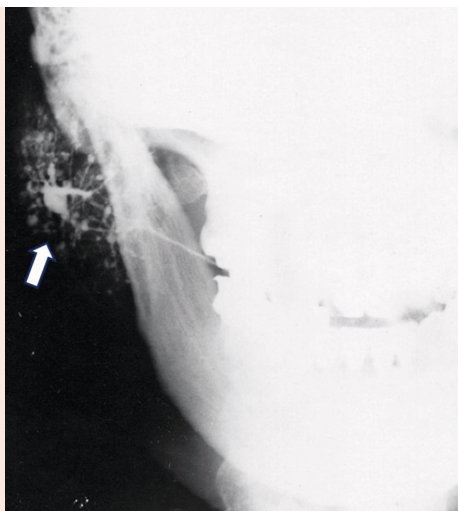
シェーグレン症候群は、涙腺、唾液腺に増殖病変を来し、唾液腺造影では「apple tree pattern」を呈する。肺・腎・中枢神経病変を来す腺外型もある。病理では腺実質細胞の萎縮、単核細胞浸潤、結合組織のフィブリノイド変性など炎症所見を伴う。つまり、自己免疫異常を伴う慢性増殖性炎症性疾患である。本証の増殖病変・膠原病は瘀血に属し、寒証型を呈するものがほとんどで、温性駆瘀血剤を基本に方剤を構成する。例えば、**芎帰調血飲第一加減**（エキス処方では**芎帰調血飲合桂枝茯苓丸**）を使用する。

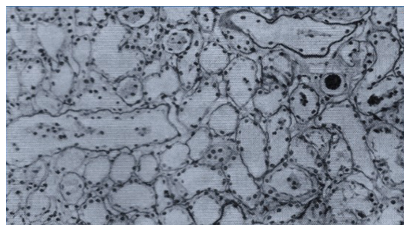
**症例1**は8歳の頃より乾燥症候群を呈し両耳下腺の腫脹を繰り返しながら20代では齲歯のため総入れ歯となった。

唾液腺の造影(図1)ではapple tree pattern様増殖炎症を認めたもので、腺外病変として間質性腎炎(図2・図3)による腎性尿細管障害性アシドーシスを合併した。そのため重症の乾燥症状と低カリウム血症による周期性四肢麻痺を呈した例である。

**(図1) 耳下腺造影**

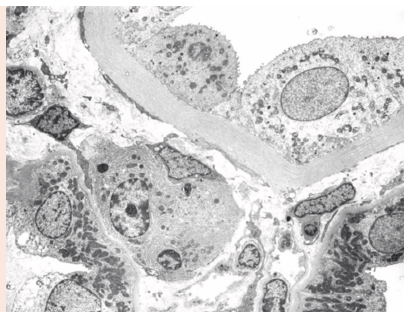
apple tree patternを呈しており耳下腺の増殖性病変を認める(矢印で示す部位)。





(図2) 腎生検光顕所見

間質の浮腫と円形細胞浸潤，尿細管管腔拡大など間質性腎炎像を呈している。



(図3) 腎生検電顕所見

尿細管基底膜肥厚と尿細管上皮細胞の扁平化，間質の形質細胞浸潤を認める。

果たして9年の経過観察で**芍婦調血飲第一加減**加味方のみにて重度の全身倦怠感と口乾は消失した(表1)。

(表1) 尿細管性アシドーシスを伴ったシェーグレン症候群  
52歳女性の臨床経過

		X年2月6日	X1年2月13日	X9年6月16日
治療薬	芍婦調血飲	12g	12g	8g
	桂枝茯苓丸	4.5g	4.5g	4.5g
	紅花	1g	1g	1g
	延胡索	1g	1g	1g
	桂皮	1g	1g	1g
症状	乾燥症状・口乾	4(+)	(+)	(-)
	倦怠感	4(+)	(-)	(-)
検査所見	血液ガス(PH)	7.378	7.390	7.396
	血清K(mEq/l)	3.2	3.8	4.3
	血清クレアチニン(mg/dl)	1.25	1.12	1.10
	NH3+CL 負荷試験	6.0	5.5	5.5
	尿濃縮力	1.005	1.014	1.016
	サクソントテスト(ml)	0.5	1.0	1.2
	IgG(mg/dl)	3249	1989	1689
	抗核抗体	320	80	40
	CH50(U/ml)	29	32	38